

小さな群れ

カトリック美唄教会

2023年10月 No.317

2023年9月24日発行

Fr. Narciso Cavazzola ofm

9月中旬から夏の暑さや和らげ、収穫の秋を迎えます。

10月2日 守護の天使

カトリック教会は、昔から聖書に基づいて、神は天使を造られ、一人ひとりを守っていると信じてきた。「あなたには災難もふりかかることがなく天幕には疫病も触れることがない。主はあなたのために、御使いに命じてあなたの道のどこにおいても守らせてくださる。彼らはあなたをその手にのせて運び、足が石に当たらないように守る。」（詩編 91.10-12）など、聖書に守護の天使のことが記されています。また、それぞれの人に守護の天使がいるということは、イエスの教えの中にも見られる。「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである」（マタイ 18.10）。また、天使はイエスがゲッセマネの園で苦しまれたときに、イエスを力づけた（ルカ 22.43）。このように天使を人間の保護者にしたことは、神の愛のしるしといえる



10月4日 アッシジの聖フランシスコ

1181年-1226年 フランシスコは、イタリア、アッシジの裕福な織物商の家に生まれた。フランシスコは、快楽を求め自由奔放な青春時代を過ごしたが、騎士になりたいと望み、戦場に赴いた。そこで病気に罹り、夢の中でイエス・キリストに出会い、回心してイエスに従う決心をした。持ち物を貧しい人びとに与え、自らは粗末な服をまとい、ローマ中を巡礼した。アッシジに戻ったフランシスコは、壊れた聖堂で祈っていたとき、教会を建て直すようにとのキリストの声を聞き、すぐに聖堂の再建を始めた。フランシスコの父は、教会のために家の財産が費やされることを嫌い、フランシスコが財産を受け継ぐことを放棄する法的手続きをとり、勘当した。



しかしフランシスコはよりいっそうキリストの言葉に従い、同志を集め、清貧と愛の生活を続けて多くの人びとを感化し、当時の乱れた教会を改善していった。その後ローマに行き、教皇インノセント3世から許可を得て、1209年に「小さき兄弟会」、後の「フランシスコ会」を創立した。

すべての被造物をとおして与えられる神の恵みを悟ったフランシスコは、神に感謝と賛美をささげた『太陽の賛歌』を作った。彼の物語は、『小さい花』という本に伝えられている。また、彼はクリスマスの夜に馬小屋を飾って祝った最初の人であり、その習慣を広めた。1224年、フランシスコは聖痕（キリストが十字架に付けられたときに受けた5つの傷）を受けたといわれている。その生涯は、キリストのしもべとして貧しく愛にあふれるものであり、現代まで世界中の人びとに大きな影響を与え続けている。

10月7日 ロザリオの聖母

1571年、全ヨーロッパはキリスト教を滅ぼそうとするトルコ帝国の脅威にさらされていた。それに抵抗するために、ベニス、ゼノア、スペインの国々は教皇のもとで同盟を結び、ギリシャのレパント沖でトルコ軍の艦隊を全滅させ、ヨーロッパを守り勝利を得た。この勝利は武力によるものではなく、ロザリオの祈りを聖母マリアにささげたことによるといわれた。そのため、時の教皇ピオ5世は、勝利の日を「ロザリオの聖母マリアの祝日」と定めた。

ロザリオの祈りは、主の祈りと天使祝詞と栄唱を唱えながら、キリストと聖母マリアの生涯を黙想する祈りである。（参考:Laudate）



2023年10月 主日ミサ・平日のミサ予定

主任司祭 ナルチゾ神父

美唄教会 小さな群れ

2023年 10月 No.317

2023年 9月24日発行

・ロザリオの祈り（世界平和のために、心を合わせて祈りましょう）

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
1	日	年間第26主日	午前11:00		
6	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
8	日	年間第27主日	午前11:00		運営委員会
13	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
15	日	年間第28主日	午前11:00		
18	水		午後6:00	ロザリオの祈り	
20	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
22	日	年間第29主日	午前11:00		世界宣教の日(献金)
27	金		午前10:30	ミサ後聖書に親しむ	
29	日	年間第30主日	午前11:00		

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前10:30** 6.13.20.27日です

《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日（敬省略）	清掃当番	花当番
1日 幼き聖テレジア 蓮井 愛. 吉村 知江子	第2週 中村・オヌマ・ジャシー 第4週 村田	船野
4日 アシジフランシスコ 吉田 淳一. 船野 奨. 米通 佑太		
4日 マリア. フランシスカ 東 小夕希 フランシスカ 小西 優		
24日 ラファエラ 小川 亜沙子		

【お知らせ】

◎10月はロザリオの月です。ミサ前10:30よりロザリオの祈りを行います。

意向は『世界平和のために、心を合わせてロザリオの祈りを行いましょう』

◎15日（日）9時より秋の大掃除

“最上のわざ”

この世で最上のわざは何？
楽しい心で歳をとり 働きたいけれども休み
しゃべりたいけれども黙り
失望しそうな時に 希望し
従順に平静におのれの十字架を担う

若者が元気いっぱい
神の道を歩むのを見ても ねたまず
人のために働くよりも
謙虚に人の世話になり
弱って もはや人のために 役立たずとも
親切で 柔和であること

老いの重荷は 神のたまもの
古びた心に これで最後のみがきをかける
まことの古郷へ行くために

おのれをこの世につなぐくさり
少しずつはづしていくのは真にえらいこと
こうして何もできなくなれば謙虚に承諾するのだ

神は最後に一番よい仕事を残してくださる
それは 祈りだ
手は何もできない けれども最後まで合掌できる
愛するすべての人の上に 神の恵みを求めるために

すべてをなし終えて 臨終の床に
神の声を聞くだらう
「来よ、わが友と、わが汝を見捨てじ」と

(イエズス会の故ホイベルス神父様の言葉)

2023年9月17日



カトリック・スカウトの日にあたって

JCCS担当司教 ラファエル 梅村昌弘

担当司教としてカトリックスカウトの日メッセージを皆さんにお届けするようになって今年で 25 年目を迎えています。1999 年 5 月 15 日に横浜教区の司教として叙階されて間もない 7 月下旬から 8 月の初旬にかけて第7回キャンポリーが「山梨県道志の森キャンプ場」で開催され、開催地の司教ということで大自然のなかでの合同ミサの司式をさせていただきました。その折、当時の山口英一会長から担当司教をお引き受けいただけませんかという申し出がありました。わたくし自身の未熟さをも顧みずお引き受けし今日に至っているという次第です。1999 年の 9 月にメッセージをお届けして 25 回目を迎え感慨深いものがありますが、また同時に、次々と若い司教が誕生しているにもかかわらず先輩面した一人の司教がこんなに長い間担当司教を務めてよいものだろうかとの戸惑いも感じています。

ところで、復活なさったキリストは天に上げられる前に弟子に向かって仰せになりました。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マタイ 16:15)。また、使徒パウロは「平和を説き、福音をのべ伝え、福音を告げ知らせる人の足は、山々の上にあつてなんと美しいことか」(イザヤ 52:7)という預言者イザヤのことばをもって福音宣教の尊さを語っています(ローマ 10:15)。更に現代を生きるわたしたちには違った意味での大切さも言われているような気がします。一昔前には考えられなかったようなインターネットをはじめとする優れた通信手段がたとえどんなに発達したとしても「自らの足で」福音を告げ知らせることの大切さです。

キリストの「よい便り」福音とは何でしょうか。それは何よりもイエス・キリストをとおして示された神さまの愛です。神の愛を一言でいうのは至難の業ですが、個人的にはいつも「無償の」「無条件の」というふたつの形容詞をもって特徴づけることができるのではないかと思います。見返りを求めることのない「無償の」愛が、すべての人に「無条件に」注がれているということです。世間でよく言われる「因果応報」とはまったく異なるものです。良いことをすれば報われ、悪いことをすれば罰せられるというものではないということです。神の愛は何らかの報いとして、報酬として与えられるものではありません。ましてや手柄や功績によるものでもありません。これこそが、わたしたちにとっての「よい知らせ」福音なのです。何もせずとも生まれながらにして神はわたしたち一人ひとりを尊い、かけがえのない存在として認め、受け入れてくださっています。人間は神の前でありのままよしとされ、ありのまま愛されているのです。神にとって人間は愛さずにはいられない、かけがえのない、すばらしい、そして何よりもいとおい存在なのです。だからこそ、わたしたち自身も互いをそのような神のまなざしをもって見つめ、互いを大切にしなければなりません。皆さんも自ら神の愛に生きる者になってください。皆さんが自ら神の愛に生きる者として、他者を愛し、他者を自分のことのように思いやることができる大人へと成長していくことができるようお祈りしています。